

自動車冒険家キムラ / Lamborghini Huracan GT3 Racecar

特選外車情報



ROAD

neo

M.B.MOOK Vol. 3

2016年4月1日発行
[2月24日発売]

魅惑の
スーパーカーラッピング

諸星伸一の
Lamborghini Festival
YASU's Sports Car Fan
2016 Tokyo Auto Salon



Wrapping *new* ground

Special Issue



ENERGY MOTOR SPORT

とどまることを知らないラッピングフィルム。ここに登場するBMW i8に使用されたフィルムも、これまでになかった新しい表現を実現したものだ。クロームメッキとマット加工とを絶妙なバランスで融合。たっぷりと塗られたクリア層を思わせる表面は、まるで贅を尽くした金属塗装のようなしっとりとした深みのある輝きを放っている。

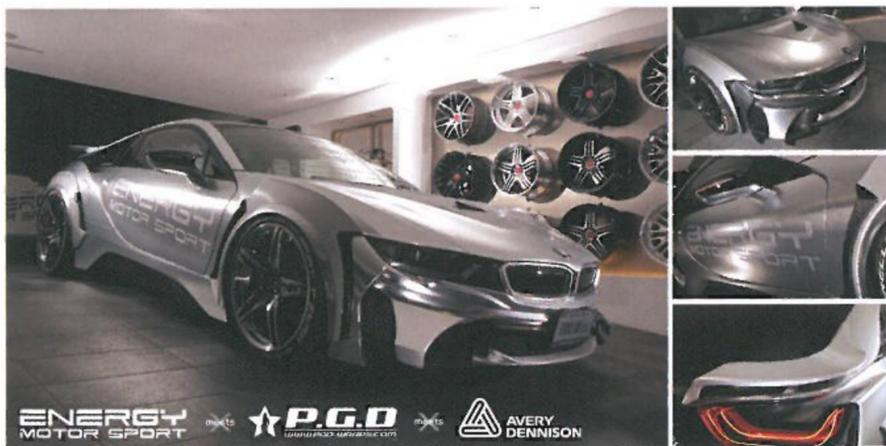
ラッピングを施工したのは、『P.G.D』の大塚氏。今回のデザインで狙ったのは、「i8感」の払拭と、エアロデザインの独自性を際立たせるために近未来感を強調することだったという。

「未来感を強調するならメッキフィルムが一番ですが、ただのメッキじゃつまらない。そこでマット感のあるクロームメッキの使用を考えました。ただし、現実的に使用できるマットクロームのフィルムというものが、そもそも存在していない。だったら自分で作るしかないだろうと」

大塚氏は艶のあるクロームメッキのフィルムにマットラミネートの加工を施すというアイデアを立案。世界的フィルムメーカー「AVERY社」の協賛のもと、何種類ものフィルムを組み合わせては様々な光源のもとで輝き具合を検証するなど、徹底的な試行錯誤を繰り返した。

その結果生まれたのが、ラッピング新時代の幕開けを感じさせてくれる今回のフィルムというわけだ。

このi8は、東京世田谷と大阪に拠点を持つBMW専門店ガレージエブリンが、同社のオリジナルブランドである「エナジーモータースポーツ」のエアロパーツをふんだんに注ぎ込んで作り上げたコンプリートカー。強烈なインパクトを放ちながら、それでいて落ち着いたラグジュアリー感も両立させるエアロデザインは、ラッピングによってさらにその魅力をアップ、日本国内はもとより、海外からも熱い注目を集めるマシンへと仕上がっている。



EVO i8

国内メーカー初となるi8専用エアロパーツで武装したデモカーは、「タイムマシン」をテーマにラッピングをデザイン。ボディサイドにはエンボス加工による六角形のモチーフを散りばめ、時空を駆け抜けるイメージを表現。さりげない差し色によって、エアロ部分のコントラストがさりげなく強調されている。



EVO i3

東京オートサロンでアドリブデモンストレーションによるラッピングが施されたi3。即興とは思えない驚くほどの完成度の高さ。ボンネットに使用されるブルー系のマットマジョーラは、ORAFOL社製の新色フィルム。



EVO 30.1

大塚氏が手がけたこのラッピングは、米国ラッピングフィルムメーカー「ARLON社」主催のコンテストで見事1位を獲得。ARLON社のカタログの表紙にも採用され、世界的な知名度を誇る1台となっている。

メッキフィルムの登場によって、その存在感をイッキに高めたカーラッピングというカスタム手法。多くの者を驚かせたクロームメッキフィルムは、今もなお進化を続けている。BMW専門店ガレージエブリンのデモカーは、その魅力を存分に感じさせてくれるマシンたちだ。

クローム新時代。